

公益財団法人 日本下水道新技術機構

第18回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成29年5月30日(火)13時30分から15時16分
- 2 開催された場所 公益財団法人 日本下水道新技術機構 8階特別会議室
- 3 理事総数 7名
- 4 出席理事数 5名
(出席) 江藤 隆 岡久 宏史 大村 達夫 手島 康博
長澤 毅
(監事出席) 穂本 守雄 丸山 淳一

5 議案及び報告事項

議案(決議事項)

第1号議案「平成28年度事業報告及び決算」の承認に関する件

(1) 平成28年度事業報告(案)

(2) 平成28年度決算関係書類(案)

第2号議案 就業規則及び関連規程の一部改正に関する件

第3号議案 会計規程の一部改正に関する件

第4号議案 第11回評議員会の招集に関する件

報告事項

(1) 第10回評議員会開催報告

(2) 平成28事業年度監査報告

(3) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

6 議事の経過の要領及びその結果

(1) 議決に加わらない決議事項への事前申し出及び議決数の報告

神原事務局長から、理事の中で、特別の利害関係を有するため議決に加わることができない決議事項があれば議決の前に議長に申し出をされるよう説明があった。そのうえで、本理事会の出席者数は5名出席であり、特別の利害関係を有すると申し出をされる理事がいなければ、本理事会での決議事項は成立することの報告があった。

(2) 議長の選出

神原事務局長から、理事会運営規則第6条第1項の規定により、「理事会の議長は、理事長がこれに当たる」と定められていることの説明があり、これに則り江藤理事長が議長を務めることとなった。

(3) 議事録署名人の報告

江藤議長から議事録署名人は、定款第43条第2項の規定により出席した代表理事及び監事であることから、江藤代表理事と穂本、丸山両監事が議事録署名人になることの報告があった。

(4) 議案の審議状況及び決議結果等

○決議事項

第1号議案「平成28年度事業報告及び決算」の承認に関する件

「平成 28 年度事業報告(案)」及び「平成 28 年度決算関係書類(案)」の両案について、岡久専務理事及び事務局から配布資料に基づき一括して説明があった。このあと、穂本監事より平成 28 事業年度監査報告が報告事項(2)の監査報告書に基づき報告された。

このあと、同議案に関して、次の発言・質疑応答があった。

大村理事 事業報告は事業計画に従って事業が行われた報告ということですが、事業報告の内容が計画と違ったというか新たにされた研究があれば、どの研究なのか、それとも計画どおり研究がなされた報告となっているのか、その辺をご紹介していただきたい。

江藤議長 平成 28 年度事業報告を詳細にご覧になっていただければ記述されております。

大村理事 その辺のところを計画外ではあったが 28 年度はこういう研究を新たに実施したというものがあれば詳しくご説明いただきたいという趣旨です。

岡久専務理事 中期計画の進捗状況について精査しておりまして、計画を上回ったものとして、健全化・老朽化対策の中で公共団体のニーズが強い、管きよの長期改築修繕計画、効率的な管きよ調査、高度処理施設土木構造物劣化に関する研究の実施や、民間との共同研究を実施している下水道管路の包括的民間委託を推進するため、管路マネジメント支援に関する自主研究を追加実施、北海道及び道内市町村のBCP策定支援を追加実施、また雨天時侵入水について、当初の共同研究に追加して自主研究による発生個所の効率的な絞り込みや対策検討を実施しました。さらに国の政策支援として下水処理場における地域バイオマス利活用マニュアルを取り纏めました。

大村理事 例えば熊本地震の震災対応では臨時的な費用が発生していると思われ

ますが
江藤議長 事業報告に基づき、具体的にご説明いたしますと、記述にありますように浸水対策、健全化・老朽化対策関連の調査・研究が当初計画よりも追加が多かった。あるいは、下水道管路の包括的民間委託を支援するための共同研究などが追加となったことから事業が拡大し増収となったところですが、これを財源として熊本地震における下水道BCPについて、被災自治体を対象にアンケート等を行い改善に向けた整理を行うなどの自主研究を実施したところ

です。
大村理事 次回からは事業計画と比較して新たに実施した研究などについて詳しくご説明いただければと思います。

長澤理事 下水道管きよの包括的な管理委託について詳しくお教え願いたいのですが、下水処理場の包括管理委託についてはイメージできるのですが管路については、機構として管路包括委託について、これから制度的な研究を進めていくことと思いますが、この中に技術的なものがどう絡んでいくのか、また、管路の管理包括委託と処理場の管理包括委託の現状、今後、管路包括委託と技術的な面で併せて処理場の包括委託を進めるのかなど、思いつく範囲でお教え願いたい。

岡久専務理事 下水道施設の包括委託については、下水処理場については、コスト削減になり効率化が進むということで、かなり進んでおり包括委託は、約 2 割弱の下水処理場で実施されています。下水処理場において進んでいる理由として、要求水準が処理水の水質基準をまもるということで評価がし易いことが考えられます。

管路についてはそこが難しく、下水道管路の包括委託は緒に就いたばかりであり、全国で 10 件程度しか実施されておりません。それも色々な段階のものがあり、初歩的なレベルで、例えば 5 か年で管路の清掃などの日

常的な維持管理をはじめ、調査・点検し、不具合があったら対応する委託が中心です。機構としては管路の包括委託をもう少し促進させようという思いがあり、包括委託を進めようとする、どのような仕様内容にするか、発注方法はどうか、業者選定はどうかなど発注前の課題があり、また発注後も業者に長期間の管理を任せる事になりますが、公共団体としては受託者の監視・評価の方法が難しく、ノウハウも固まっていないことから、機構としては、このような課題を解決しようと民間企業と共同研究を実施して、発注方法、監視方法等をマニュアル化して、公共団体に企画提案することにより、管路の包括委託が進み、管路管理が適切に行われると考えております。また、いわゆる第三者機関的立場で発注に際してのアドバイスをし、評価・監視をするような役割を機構でも担えないのかという事で、いまノウハウを蓄積しているところです。

長澤理事 包括委託を受託する業界としては、どのようなところを想定しているのか、例えばコンサルとかゼネコンとか

岡久専務理事 管路管理の大手業者がメインとなると考えられるが、実例としては、管路管理業者1社ではなく、管路管理の計画を作成するコンサル会社や現場をよく理解している地元業者が一体となって受注しているようです。

長澤理事 平成28年度事業計画では、包括委託の記述についての記憶があまりないが、事業報告を見ると、いたるところに管路包括委託の記述があることから、今後、急速に伸びていく分野かなと思ひまして、質問させていただきました。

岡久専務理事 管路包括委託については緒についたばかりですので、機構としてはノウハウを蓄積して、いかに促進していくか、促進していく役割として機構は何ができるか検討を始めたところです。

江藤議長 機構が第三者機関として、この業務を実施するためには、定款の変更を行い、事業の柱として位置付ける必要があるのではないかと考えています。ただ現段階では、これまでは仕様発注の複数年契約の包括委託までは進んできたが、これからは性能発注をどういう方法で管路包括委託できるかという段階で、その、方法がわからないことから研究テーマとして取り上げ、機構が民間、公共団体と共同研究を行い、ある程度成果がまとまり、公共団体から機構に第三者機関として業務依頼が来るようになれば、研究ではなく定款変更をして業務として位置づけ、また、実施体制も整えて業務として実施することになると思ひますが、まだその段階ではなく調査研究として取り組んでいるとご理解いただきたい。

長澤理事 背骨は下水道協会の仕事のように思えるが、そして機構が技術的な取り込みについてバックアップをするということではないでしょうか

江藤議長 まさにそのとおりで、ある自治体が下水道協会に依頼したところ、個別案件については受注する性格ではないと、断られたと聞いております。また、下水道事業団で実施してはどうかという議論もありましたが、管路関係の専門家がいなくて体制的に十分でないという事から、機構が調査研究を行うこととなったところです。

大村理事 これからは包括的委託が管路だけではなく、色々出てくると考えられるが、事業体が包括委託をしようとする時に、どんな手法で委託するかマニュアル的なものがあれば、すごくいいことだと思う。特にこれからは少子高齢化による統廃合などで施設を変えていくようなことが増えていくと考えられ、そのような中で事業体が自ら管理を行うのではなく民間の力を活用して管理するためにもマニュアルがあれば支援できると考えられることから新技術ということで機構が実施するのは良いことだと思う。

江藤議長　そういう支援する機関がどこか必要だと思imasるので、機構がそういう役割を担えればと思っております。

手島理事　公益財団特有のことでしょうが、収支相償についてのマネジメントに苦勞されていると思われますが、黒字になった場合にその解消に努力されている一方で、旅費とかコピー代とか通信費などのコストダウンを行うなど、ほかの部分に投資するという事なのか、収支バランスをとるときの優先順位等を経営者としてどのように考えておられるかお聞かせいただきたい。

江藤議長　事業収入に対して支出としては人件費が主なものであります。機構の職員は半分が企業からの出向者、残り半分がプロパーと自治体等からの出向者で構成されていますが、年度途中で流動的に人員を変動することはできないわけです。また、人員確保自体も厳しい状況であり、また、安定的な財源確保が見込めないことから、やみくもに増員することもできない中で、年度開始前に事業見込みを把握して、収入見合いで人員も含め執行体制を整えてスタートするわけですが、年度途中で負荷の大きい受託があれば、問題はどうしても職員に負担をかけてしまうことになり、働き方改革や長時間労働対策が言われている中で、いかに職員の負担を軽減するため効率化をするかですが、そのために旅費精算システムを導入したり、業務のシステム化をしたり、アウトソーシングといいますか外部の人間に業務の一部を委託するなどして業務を支援していただくなどして、業務と人のバランスをとっているのが実情です。手島理事の質問の答えになるかわかりませんが一番のポイントは人の手当であり、いかに負担を軽減しながら仕事の質を確保していくかのバランスをとることに苦勞しているところです。

手島理事　事業が大きくなれば外注費を増やすなどの調整がし易いのでは

江藤議長　公益法人という性格上、単純に外注費を増額するのも丸投げという批判を受けかねないことから、外注もおおのずと制約があり、そのバランスをとるということも苦勞しているところです。

以上のほか、意見・質問はなく、議長が同議案について諮ったところ、原案どおり出席理事全員一致で可決した。

第2号議案 就業規則及び関連規程の一部改正に関する件

事務局から、政府において働き方改革を踏まえた労働基準法の改正を検討している中で、この動向を見守りつつ、当機構において、現行の就業規則について見直しを行い、法律に則った条文に改正するとともに、法律事項ではないが、時代背景や標準的な就業規則に照らして、一般的な就業規則となるよう改正すること、また、この就業規則を引用し別に定められている関連規程についても併せて改正することとした就業規則及び関連規程を一部改正する提案理由及び改正条文について説明があった。

このあと、同議案に関して、次の発言・質疑応答があった。

丸山監事　時間外勤務、休日労働が三六協定の範囲内で命令することを明確にしたとの説明があったが、現在でも三六協定に基づき時間外勤務、休日労働を命令しているということでしょうか。

事務局　そのとおりです。

このあと、意見・質問はなく、議長が同議案について諮ったところ、原案どおり出席理事全員一致で可決した。

第3号議案 会計規程の一部改正に関する件

事務局から、法人税法の改正により減価償却方法が改正になったため、会計規程

の減価償却に関する規定を改正する必要があるとあり、今後は法人税法等の改正に左右されないような規定に改正し、個別償却方法の改正については財務諸表の会計方針の変更で対応することとした会計規程を一部改正する提案理由及び改正条文について説明があった。

このあと、同議案に関して、次の発言・質疑応答があった。

丸山監事 この会計規程の改正は清泉監査法人の指導によるものですか

事務局 そのとおりです。

このあと、意見・質問はなく、議長が同議案について諮ったところ、原案どおり出席理事全員一致で可決した。

第4号議案 第11回評議員会の招集に関する件

事務局から、第11回評議員会を定款第20条第1項の規定に基づき、6月22日(木)午後1時30分から当機構特別会議室で開催したい旨の説明があった。

議案は評議員の選任に関する件、役員を選任に関する件及び平成28年度決算関係書類の承認に関する件であり、報告事項として理事会の決議事項である平成28年度事業報告、就業規則及び関連規程の一部改正及び会計規程の一部改正についての報告と、理事会での報告事項である平成28事業年度監査報告及び代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告、その他の報告事項として役員推薦委員会結果報告及び役員評価委員会結果報告とのことであった。

このあと、意見・質問はなく、議長が同議案について諮ったところ、原案どおり出席理事全員一致で可決した。

○報告事項

- 1 事務局より、第10回評議員会開催結果の報告があった。
- 2 代表理事(江藤理事長)及び業務執行理事(岡久専務理事)から職務執行状況の報告があった。

以上をもって議案及び報告事項について、すべて終了したので、15時16分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

平成29年5月30日

代表理事

江藤 隆 

監 事

稿本守雄 

監 事

丸山 淳一 